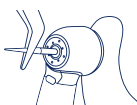




メンテナンスを行う際は感染予防のため、
保護眼鏡、マスク、グローブ等を着用してください。

1. 準備

コントラアングル

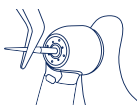


① バーを取り外します。

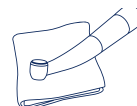


② ハンドピースを
モーターから
取り外します。

エアタービン



① バーを取り外します。



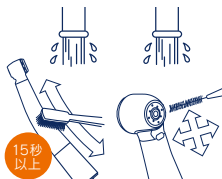
② 乾いた布を用いて
ハンドピースを
拭き取ります。



③ ハンドピースを
20秒以上動作させ、
異常がないことを
確認します。

2. 洗浄/清掃/消毒

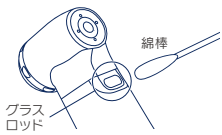
ハンドピースの洗浄



① ハンドピースに付着した汚れを流
水下でブラシ(金属製は不可)を
用いて洗浄します。

② 水分を吸水性のある布等で拭き
取ります。

グラスロッドの清掃



グラスロッドにゴミや切削物などが
付着した場合は、消毒用アルコール
を染みこませた綿棒などで丁寧に拭
き取ります。

クリーンヘッドの清掃

① クリーンヘッド穴まわりの汚れを
歯間ブラシ等で落とします。



② ハンドピースを回転させたまま
きれいな水の中にヘッド半分が
隠れるくらい入れます。



③ 回転⇄停止を2~3秒繰り返
します。(3回程度)

④ ハンドピースを水から取り出し、
きれいな布またはエアガンで表面
の水分を取り除きます。

⑤ カップリングから
取り外します。
(エアタービンのみ)



消毒

清掃・洗浄を行った後、消毒用アルコールを
染みこませた布などで丁寧に全体を拭き取
ります。

3. 注油

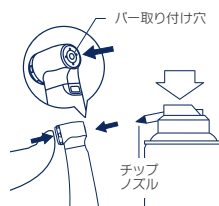
PANA SPRAY Plusでの注油



各患者の治療後、またはオート
クレープ滅菌前には、以下の通り
必ずパナスプレープラスで注油
を行ってください。その際オイル
の周囲への飛散を防ぐため、必ず
ハンドピースを布等で覆ってくだ
さい。パナスプレープラスをご使
用する前はスプレー缶を3~4回
よく振ってからご使用下さい。

チャック内の清掃

① パナスプレープラスの
ノズル部にチップノズル
を取り付けます。



② プッシュボタンを軽く
押しながらバーの取り
付け穴へ直接スプレー
注油を行います。

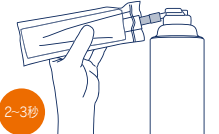
※FGバー使用製品の場合

注意: チャックの清掃を怠りますとチャック内にゴミがたまり、バーが抜けるなどの恐れ
があります。ハンドピース先端から出てくるオイルの色が汚れている場合には、この汚れ
が無くなるまで繰り返し注油を行ってください。

① パナスプレープラス
のノズル部に専用
のスプレーノズルを
強く挿し込みます。

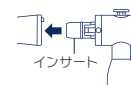


② スプレーノズルをハンドピース後部
へ挿し込み、ハンドピースを押さ
えて、ハンドピース先端よりオイルが
出るまで2~3秒スプレーします。
注油は先端から異物等の汚れが
出なくなるまで繰り返し行います。



4. 余剰オイルの排出

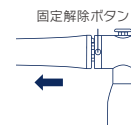
EZグリップセットを使用した 余剰オイルの排出(コントラの場合)



① EZグリップの
インサートを
ハンドピース後部
へ挿し込みます。

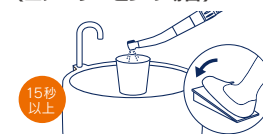


② エアブローボタン
を約10秒程度押し
てハンドピース内
に残留したオイル
を排出します。



③ 固定解除ボタンを
押しながら
ハンドピースを
引き抜きます。

空運転による排出 (エアタービンの場合)



① ハンドピースをカップリングに接続します。

② バーを取り付けず15秒ほど空運転します。

③ ハンドピースを取り外します。

※油分が外装に付着した場合は
ガーゼなどの布で拭きとって
ください。

5. 包装/滅菌

包装

注油により表面に付着したオイル
をガーゼなどの布で全体を拭
き取ります。



ハンドピースを個々に滅菌バッグ
に入れ、封印します。



注意

PVA(ポリビニルアルコール)等の水溶性
の接着成分を含む滅菌バッグは使用
しないでください。滅菌中に溶出した接
着成分が製品内部に入り込み、回転不良
(固着して作動しない)等の不具合を
起こす場合がございます。

滅菌

オートクレープ滅菌を行います。
以下の条件でオートクレープ滅菌
を行ってください。



※132℃で15分間以上、又は134℃で3分
間以上。
※ご使用のオートクレープ滅菌機の取扱説
明書に従ってください。
※乾燥工程を含め、135℃をこえる滅菌機
を使用しないでください。故障の原因に
なります。

このマークの付いているナ
カニ製ハンドピースは、135℃
の蒸気滅菌器で滅菌可能です。

警告

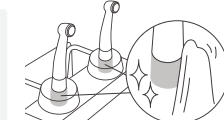
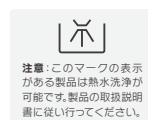
●治療が終了しましたら必ずすぐ(1時間以内)に、洗浄、注油、滅菌を行ってから保管してください。血液など
が付着したまま放置されますと、内部で血液が凝固し、サビが発生することにより、発熱による火傷や故障等
の原因になります。また、バーが取り外しにくくなります。

注意

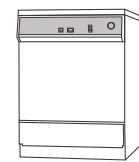
●製品によって、浸漬および超音波洗浄器での洗浄が出来るものと出来ないものがあります。詳しくは、
ご使用製品の取扱説明書をご確認ください。●酸化電位水(強酸性水、超酸性水)、強酸、強アルカリ性
の薬液、塩素含有の溶液、ベンジオン、シンナー等の溶剤で洗浄、浸漬、拭き取りをしないでください。
●熱水洗浄器を使用する場合は、洗浄後に十分乾燥させて、内部の水分を取り除いてから注油をして
ください。水分が残った状態で注油を行うと、注油の効果が損なわれるだけでなく、内部腐食等の発生す
る原因となります。

ウォッシャーディスインフェクター(熱水洗浄器)での洗浄

① ハンドピースホルダーに保持される部分は、
消毒用アルコールで汚れを拭き取ってください。



② ISO15883-1に
合致した熱水洗浄
器を使用してく
ださい。熱水洗浄
器の取扱説明書に
従ってください。



注意

●各患者の治療後、ハンドピース内に残った汚れ、切削粉などを排出・洗浄し、ベアリング等を潤滑するために必ず注油を行って
ください。チャック内の清掃、ハンドピース内部への注油を怠りますとベアリング等の摩耗粉や汚れが原因で以下の不具合、
または思わぬ事故が発生する恐れがあります。●ハンドピースの発熱や回転不良/異常な振動、音/バーの振れ/バーが抜ける、または抜けにくい/ベアリングの早期破損

●パナスプレープラスを送さずに使用しないでください。●ハンドピースを
しっかり押さえてください。スプレーの圧力によってハンドピースが飛び出す
恐れがあります。●オイル飛散を防ぐため、ヘッドに布等をあてがう場合は、
プッシュボタンを押さないように注意してください(右図)。内部部品が破損
し、バーが取り付けられなくなる恐れがあります。●他社製のオイルは使用し
ないでください。使用中にハンドピースが発熱する恐れがあります。●ハンド
ピース内の余分なオイルにより発熱する恐れがあるため、注油後はオイルを排
出してください。



コントラアングルの
メンテナンス動画は
こちら

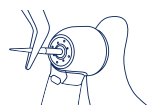


エアタービンの
メンテナンス動画は
こちら



1. 準備

コントラアングル



① バーを取り外します。



② ハンドピースを
モーターから
取り外します。

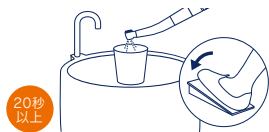
エアータービン



① バーを取り外します。

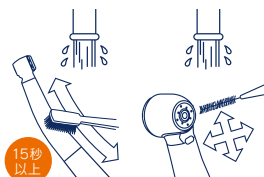
② 乾いた布を用いて
ハンドピースを拭き
取ります。

③ ハンドピースを20秒以上動作させ、
異常がないことを確認します。



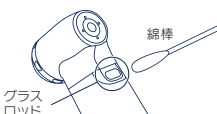
2. 洗浄/清掃/消毒

ハンドピースの洗浄



① ハンドピースに付着した汚れ
を流水下でブラシ(金属製は
不可)を用いて洗浄します。

② 水分を吸水性のある布等で
拭き取ります。



グラスロッドの清掃

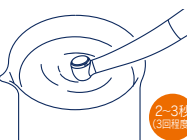
グラスロッドにゴミや切削物などが付着
した場合は、消毒用アルコールを染みこま
せた綿棒などで丁寧に拭き取ります。

クリーンヘッドの清掃

① クリーンヘッド穴まわりの汚れを歯間
ブラシ等で落とします。



② ハンドピースを回転させたままき
れいな水の中にヘッド半分が隠れ
るくらい入れます。



③ 回転→停止を2~3秒繰り返します。
(3回程度)

④ ハンドピースを水から取り出し、きれいな
布またはエアガンで表面の水分を取り
除きます。

⑤ カップリングから
取り外します。
(エアータービンのみ)

消毒

清掃・洗浄を行った後、消毒用アルコールを
染みこませた布などで丁寧に全体を拭き取
ります。

3. 注油

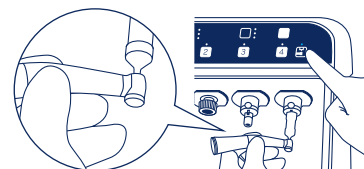
iCareでの注油



iCareを使用すること
で、ハンドピースの注油
を自動で行うことが可
能です。使用の際は、付
属の取扱説明書をよく
読んで上で、使用して
ください。

チャック内の清掃

iCareではチャック内の清掃を行うことができます。
チャック内の清掃は、ジョイント"4"しか使用できま
せん。チャック内の清掃は、少なくとも週に一度は行っ
てください。



注意：ハンドピース先端から出てくるオイルの色が汚れている場合には、
この汚れがなくなるまで繰り返し注油を行ってください。弊社製ス
トレートハンドピースは、チャック内の清掃を行わないでください。故障す
る恐れがあります。

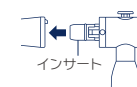
ハンドピースの取付

iCareは同時に4本のハンド
ピースに注油を行うこと
が可能です。コントラ2本
タイプ、コントラ3本タイ
プの2種類がございます。



4. 余剰オイルの排出

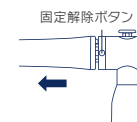
EZグリップセットを使用した 余剰オイルの排出(コントラの場合)



① EZグリップの
インサートを
ハンドピース後部
へ挿し込みます。

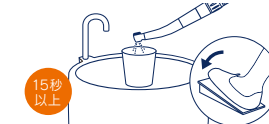


② エアブローボタン
を約10秒程度押し
てハンドピース内
に残留したオイル
を排出します。



③ 固定解除ボタン
を押しながら
ハンドピースを
引き抜きます。

空運転による排出 (エアータービンの場合)



① ハンドピースをカップリングに接続します。

② バーを取り付けず15秒ほど空運転します。

③ ハンドピースを取り外します。

※油分が外装に付着した場合は
ガーゼなどの布で拭きとって
ください。

5. 包装/滅菌

包装

注油により表面に付着したオイル
をガーゼなどの布で全体を拭
き取ります。



ハンドピースを個々に滅菌パック
に入れ、封印します。



▲ 注意

PVA(ポリビニルアルコール)等の水溶性
の接着成分を含む滅菌パックは使用
しないでください。滅菌中に溶出した接
着成分が製品内部に入り込み、回転不良
(固着して作動しない)等の不具合を
起こす場合がございます。

滅菌

オートクレープ滅菌を行います。
以下の条件でオートクレープ滅菌
を行ってください。



※132℃で15分間以上、又は134℃で3分
間以上。
※ご使用のオートクレープ滅菌器の取扱説
明書に従ってください。
※乾燥工程を含め、135℃をこえる滅菌器
を使用しないでください。故障の原因に
なります。

このマークの付いているナ
ニ製ハンドピースは、135℃
の蒸気滅菌器で滅菌可能です。

▲ 警告

●治療が完了したら必ずすぐ(1時間以内)に、洗浄、注油、滅菌を行ってから保管してく
ださい。血液などが付着したまま放置されますと、内部で血液が凝固し、サビが発生するこ
とにより、発熱による火傷や故障等の原因になります。また、バーを取り外しにくくなります。

▲ 注意

●製品によって、浸漬および超音波洗浄器での洗浄が出来るものと出来ないものがあり
ます。詳しくは、ご使用製品の取扱説明書をご確認ください。●酸性電位水(強酸性水、超
酸性水)、強酸、強アルカリ性の薬剤、塩素含有の溶液、ベンジン、シンナー等の溶剤で洗
浄、浸漬、拭き取りをしないでください。●熱水洗浄器を使用する場合は、洗浄後に十分
乾燥させて、内部の水分を取り除いてから注油をしてください。水分が残った状態で注油
を行うと、注油の効果が損なわれるだけでなく、内部腐食等の発生する原因となります。

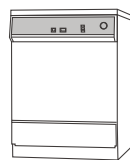
ウォッシャーディスインフェクター(熱水洗浄器)での洗浄

① ハンドピースホルダーに保持される部分は、
消毒用アルコールで汚れを拭き取ってください。



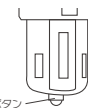
注意：このマークの表示
がある製品は熱水洗浄が
可能です。製品の取扱説明
書に従ってください。

② ISO15883-1に
合致した熱水洗浄
器を使用してくだ
さい。熱水洗浄器
の取扱説明書に
従ってください。



iCareエアフィルターの水抜き

エアフィルターのケース
内に水が溜まってきたら、
ケースの下にあるドレン
ボタンを押して水抜きを
行います。



注意：それぞれの水抜きを1週間に1度行ってくだ
さい。水抜きを怠ると、本製品内部のメンテナンスオイルに
水が混入する恐れがあります

iCare使用時の注意

エアータービン、コントラアングルハンド
ピースは必ずバーを取り外してから、ジョ
イントまたはアダプターに装着してくだ
さい。ただし、ストレートハンドピースの
場合は、必ず付属のテストバーを取り付
け、チャック開閉リングをロックしてから
ジョイントに装着してください。



▲ 注意

●各患者の治療後、ハンドピースに残った汚れ、切削粉などを排出・洗浄し、ペアリ
ング等を潤滑するために必ず注油を行ってください。チャック内の清掃、ハンドピース
内部への注油を怠りますとペアリング等の摩耗粉や汚れが原因で以下の不具合、
または思わぬ事故が発生する恐れがあります。●他社製のオイルは使用しないで
ください。使用中にハンドピースが発熱する恐れがあります。●ハンドピース内部の余
分なオイルにより発熱する恐れがあるため、注油後はオイルを排出してください。
[ハンドピースの発熱や回転不良/異常な振動、音/バーの揺れ/バーが抜ける、
または抜けにくい/ペアリングの早期破損]

